

全国シエルターシンポジウム石川
分科会²

「シエルター運営と行政との連携」

まず、はじめに、パネリストの山田 里加さんから、「DV被害者をなんとか救済、支援したい」と思い、民間の支援団体を立ち上げたのだが、民間で出来ることには限界があるにもかかわらず、行政からの理解と協力が得られず、非常に「つらい」という報告がなされた。それを受けて、鳥取県の「みもぞの会」から、はじめは鳥取県でも同じように行政の理解と協力、支援がなかったが、知事が替わり、新しい知事がDV根絶を主要施策に据えたことにより、飛躍的に進んだという話しを紹介し、いままのような施策がおこなわれているのかについて報告した。

鳥取県の九月議会で補正予算化されたDV関連事業としては、

一、配偶者以外恋人親兄弟からの身体的、精神的、性暴力被害者支援にも助成を。

二、シエルター借り替え時、敷金・礼金支給

三、被害者自立アパート敷金と家

賃(二月分)

四、入院に係わる個室費用支給

その他としては

一、毎年、医者への研修を行なう

二、DV対応マニュアル作成

三、事例研究など

旭川市でも、子ども女性支援ネットワークが設置され、右のその他の一から三は、今後、徐々に進んでいくことはずである。

他の参加者から、行政がDV根絶施策に力をいれるようになるにはやはりトップを替えるのが一番早いのではないかと。トップを替えるにはどうしたらいいのかという質問が出たのに対して、鳥取県の担当者、県の女性運動の歴史を述べ、そついつ積み重ねが、女性政策に理解のある知事を誕生させたのであつて、一朝一夕にタナボタでそつなるものではないと語っていた。

最後に会場から、山田さんへ励ましの言葉がたくさん寄せられ、彼女が思わず涙ぐむという場面もあり、シエルター運営者同士のシスターフッドを感じる事ができた分科会だった。

久保 あつこ